

#10 民数記におけるキリストに関する主要な予表と予言

(民数記結晶の学び) 2019/4/29-5/5

I. 私たちは、民数記におけるキリストに関する主要な予表

を見て、経験する必要があります：**A.** アロンの芽を出した杖が予表しているのは、死んだキリストではなく、復活したキリスト、芽を出すキリストです。彼は芽を出すだけではなく、花を咲かせ、実を結んで熟します：**民 17:8** その翌日、モーセは証しの天幕に入って行った。すると見よ、レビの家のアロンの杖が芽を出し、つぼみを付け、花を咲かせ、アーモンドの実を結んでいた。**1.** 民数記 16:3 の言葉と、9 と 10 のモーセの言葉が示しているのは、神の民の間のこの反逆の根が野心にあり、また権力とさらに高い地位のための闘争にあったということです。野心は神のご計画を台無しにして、彼の民に損害を与えます。何世紀にもわたって、クリスチャンの間にあった多くの問題は、野心によって引き起こされてきました。**2.** モーセは神の代理権威として、あるいは神の代行権威として、この事案を最高権威としての神にゆだねて、神の語りかけ、暴露、裁きを求めました。権力闘争において、裁くことができ、また真の状況を暴露することができる唯一の方は、神ご自身です。**16:5** そして、コラとそのすべての仲間に語って言った、「明日の朝、エホバはだれがご自分のものか、だれが聖なるものかを知らせ、その者をご自身に近づけられる。**3.** コラと他の者は、生きながらシェオール[陰府]へと直接下って行きました。彼らは、まず死ぬ必要はありませんでした。この事は、エホバがもたらした新しいことでした。**4.** 神がコラとダタンとアピラムと共に反逆した二百五十人を裁いたことが表徴するのは、人の意見にしたがって、肉によって、他の人との競争心の中で人が神に仕えることすべてに対して、十字架の裁きが臨むということです。**5.** 民数記 16 章におけるコラと彼の仲間の反逆が祭司職と関係があったので、アロンの杖が芽を出したことは立証であり、アロンが神に受け入れられて、神が与えた祭司職の務めにおいて権威を持っている者であることを示しました。**6.** あらゆる奉仕の原則は、芽を出した杖にあります。復活が、神に対する私たちの奉仕の永遠の原則です。私たちができる事は、天然の領域に属します。私たちができない事は、復活の領域に属します。**月**
B. 赤い雌牛は、汚れを除く水の主要な構成要素であって、贖うキリストを表徴します：**民 19:2** 「エホバが命じて言われた律法のおきては次のとおりである。『イスラエルの子たちに告げて、欠陥がなく、傷がなく、くびきを負ったことがない赤い雌牛を、あなたの所に引いて来させなさい。**19:9** そして、清い人がその雌牛の灰を集めて営所の外の清い所に置き、それをイスラエルの子たちの集団のため、汚れを除く水のために保存しておかなければならない。それは罪のためのささげ物である。**1.** 赤の色は罪の肉の様を表徴し、それは外側で人の罪を担うためです。**2.** 雌牛に欠陥がないことは、キリストが罪の肉の様にあって、罪深い性質がなかったことを表徴します。雌牛に傷がなかったことは、キリストが完全であったことを示します。**3.** 雌牛が決してくびきを負ったことがないことは、キリストがだれによっても、特に神の敵サタンによって、あるいは彼のために、決して用いられなかったことを表徴します。**4.** キリストは赤い雌牛のように、営所の外で、すなわちエルサレムの都の外の小さな山、カルバリで、十字架につけられました。**5.** 「祭司は香柏の木とヒソブと緋色の撚り糸を取って、雌牛の燃えている中に投げ入れなければならない」：**a.** 香柏の木は、キリストの威厳ある人性を表徴し、ヒソブは、キリストのへりくだった人性を表徴し、緋色は、贖いの最高の意義を表徴します。**6.** 高く威厳あるキリストと低くへりくだったキリストは、彼の贖

いにおいて、汚れを除く水を構成する要素でした。**6.** 民数記 19:9 は言います、「清い人がその雌牛の灰を集めて営所の外の清い所に置き、それをイスラエルの子たちの集団のため、汚れを除く水のために保存しておかなければならない。それは罪のためのささげ物である」：**a.** 灰は、減少して無になったキリストを表徴します。この灰は、汚れを除く水のために保存しておかれました。それは罪のきよめ、あるいは罪のためのささげ物でした。**b.** 民数記 19 章の汚れは、死を指しています。死は、イスラエルの子たちの間で優勢になりました。ですから、汚れを除く水が必要でした。**7.** 「この汚れた者のためには、罪のためのささげ物の焼いたものの灰を取り、それらに流れ水を加えて器の中に入れてなければならない」(19:17)：**a.** キリストの贖いの働きだけが、彼の威厳ある、またへりくだった人性を通して、彼の死と彼の復活の霊をもって、その状況をいやし清め、死の汚れを除くことができました。**b.** ここの生ける(流れ)水は、キリストの復活における聖霊を表徴します。汚れを除く水の中に、キリストの贖いの効能と、彼の復活の霊の洗う力があります。**火**
C. 民数記 20:8 の岩は、十字架につけられ復活したキリストを予表し、岩から流れた水は、十字架につけられ復活したキリストから流れ出した生ける水としてのその霊を予表します。**民 20:8** 「杖を取り、集団を集め、あなたとあなたの兄弟アロンは、彼らの目の前で岩に語って、水を出させなさい。こうしてあなたは、彼らのために岩から水を出させ、集団と家畜に飲むものを与えなければならない」。I コリント 10:4 みな同じ霊の飲み物を飲みました。すなわち彼らは、彼らについて来た霊の岩から飲んだのです。そしてその岩はキリストです。**1.** キリストが十字架につけられ、その霊が与えられたので、キリストが再び十字架につけられる必要はありません。すなわち、再び岩を打って、生ける水が流れるようにする必要はありません。神のエコノミーの中で、キリストは一度だけ十字架につけられるべきです。**2.** 私たちは十字架につけられたキリストから生ける水を受けるために、「杖を取り」、そして「岩に語る」必要があるだけです。杖を取るとは、キリストの死において彼と一体化し、キリストの死を私たち自身と私たちの状況に適用することです。岩に語るとは、打たれた岩としてのキリストに直接の言葉を語り、その霊がすでに与えられたという事実に基づいて、命の霊を私たちに与えてくださるよう彼に求めることです。**3.** 民数記 20 章において、モーセは民が逆らっていると罪定めしましたが、モーセが神の言葉に逆らった者でした。**4.** モーセは、神を聖とすることに失敗し、神を俗なものとしてしまいました。モーセは民に対して怒って、間違っただけで岩を二度打ったことで、神を聖とすることに失敗しました。**5.** モーセは、神が怒っていないのに怒って、神の聖なる性質において神を正しく代行しませんでした。そして彼は岩を二度打って、神のエコノミーにおける神の言葉を守りませんでした。こうして、モーセは神の聖なる性質と彼の神聖なエコノミーの両方に違犯しました。**6.** このことのゆえに、モーセは神と親密であって、神の仲間と考えられていたにもかかわらず、良き地に入る権利を失ったのです。**7.** 私たちが神の民に関して言い、行なうすべてのことで、私たちの態度は神の聖なる性質にしたがっていなければならず、私たちの行動は彼の神聖なエコノミーにしたがっていなければなりません。そうでないと、私たちは自分の言葉と行為において彼に逆らい、彼に罪を得るでしょう。**水**
D. 民数記 21:4 から 9 の青銅の蛇は、主イエスの予表です。彼は私たちの身代わり、また置き換えとして、罪の肉の様に十字架につけられ、私たちが彼を「見」て(中へと信じて)、永遠の命を得ることができるようになりました：

民 21:7 民はモーセの所に来て言った、「私たちは罪を犯しました。エホバとあなたに言い逆らったからです。エホバに祈って、私たちから蛇を取り去るようにしてください」。モーセは民のために祈った。8 エホバはモーセに言われた、「一つの火の蛇を作り、それを竿の上にかきなさい。かまれたすべての者は、それを見れば生きる」。

ヨハネ 3:14 そして、モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければならない。15 それは、彼の中へと信じる者がすべて、永遠の命を持つためである。1. イスラエルの子たちは、神に対して罪を犯した時、蛇にかまれました。神はモーセに、彼らに代わって神の裁きを受ける青銅の蛇を上げるよう告げました。それはすべての人がその青銅の蛇を仰ぎ見ることによって、生きるためでした。2. 主イエスは「罪の肉の様」で来ました。その様は、青銅の蛇の形に相当します。その青銅の蛇は、蛇の形をしていましたが、蛇の毒はありませんでした。3. キリストは「罪の肉の様」となりましたが、肉の罪には少しもあざかりませんでした。4. 彼が肉体の中で十字架に上げられた時、彼の死によって、サタン、古い蛇は対処されました。これはまた、墮落した人の内側にある蛇の性質が対処されたことを意味します。5. 私たちは日ごとに主を罪のためのささげ物の実際として享受して、私たちの存在に適用することができます。彼は罪を対処する命、すなわち、私たちの罪深い性質を対処する命です。✠

E. 庇護の町は、贖う神の具体化としてのすべてを含むキリストを予表し、間違いを犯した罪人は彼の中へと逃げ込んで、庇護を得ることができます。民 35:6 あなたがたがレビ人に与える町々は、六つを庇護の町とし、殺人者がそこに逃れるようにしなければならない。そのほかに、四十二の町を与えなければならない。7 あなたがたがレビ人に与える町々は、全部で四十八の町とその放牧地でなければならない。1. キリストは神によって罪人の手に渡され、彼らは誤って彼を死に渡しました。2. どの罪人でも悔い改めるなら、神は彼を間違いを犯した罪人と見なして赦します。このような者はキリストの中へと逃げ込むことができますが、どの人でも福音を拒絶して、悔い改めないなら、神は彼を故意に罪を犯した罪人、滅びに定められた者と見なします。3. 六つの庇護の町が、ヨルダン川の両岸に三つずつありました。六の数は、間違いを犯した人を表徴します。それは、人が神によって六日目に創造されたからです。4. 三の数は、間違いを犯す人のための庇護としての三一の神を表徴します。二の数(二組のそれぞれ三つの町)は、宇宙に立っている証しを表徴し、三一の神が地上で人類の間に生きており、彼らの庇護の町であることを宇宙に証しし、宣言しています。5. レビ人に与えられた町は、四十八の町でした。四十八の町は、イスラエルの間に分散して、彼らの驚くべき、いつでも利用可能な祝福となりました。6. 庇護の町がイスラエルの子たちのためだけでなく、彼らの間の他国人や寄留者のためでもあったことは、間違いを犯す人のための庇護としての三一の神が、全人類のためであることを表徴します。7. さらに、六つの庇護の町が異なる場所に分布していることは、キリストが三一の神の具体化として、近くいつでも利用可能であるということを示しています。三一の神は人々の間に広がって、私たちがいる所に到達し、間違いを犯すすべての者の庇護の町となりました。✠

II. 厳密に言って、民数記の予言である箇所は、24:14 から25の箇所だけです。聖書解説者はその箇所を「バラムの予言」と呼んでいます。この予言は、主の二度目の来臨の時に起こる事柄について語っており、それは 14 の「終わりの日」という句によって示されています。民 24:17-19 私は彼を見る、しかし今ではない。私は彼を見つめる、しかし近

日ではない。一つの星がヤコブから出て来て、王の杖がイスラエルから起こる。…彼の敵、…も所有される。そしてイスラエルは雄々しく振る舞う。ヤコブから出た方が主権を持ち、残った者たちを町から滅ぼす。A. ヤコブから出て来る星もイスラエルから起こる王の杖も、キリストを指しています: 1. 主は彼の誕生の時に輝く星として出現し、彼の二度目の来臨の時にも輝く星として出現しますが、彼の二度の出現の間にあるこの時代において、彼はまた彼に属する人たちの心に明けの明星として昇ります。2. 王の杖はキリストの支配を指しています。王の杖を持つ方は、御座において、すべてを含む力と権威を持つ方です。B. 民数記のイスラエルの歴史は、召会の歴史を表徴します。キリストはこれらの歴史の終わりに、星また王の杖として現れ、すべての人々を照らして、全地を支配します。その時、神の民をひどく悩ます地上のあらゆるものは取り除かれて、神の民はもはや苦しむことはなくなります。✠

Crucial Point①: 召会生活について来る霊の岩

OL1: 民数記 20:8 の岩は、十字架につけられ復活したキリストを予表し、岩から流れた水は、十字架につけられ復活したキリストから流れ出した生ける水としてのその霊を予表します。OL2: キリストが十字架につけられ、その霊が与えられたので、キリストが再び十字架につけられる必要はありません。すなわち、再び岩を打って、生ける水が流れるようにする必要はありません。神のエコノミーの中で、キリストは一度だけ十字架につけられるべきです。

OL3: 私たちは十字架につけられたキリストから生ける水を受けるために、「杖を取り」、そして「岩に語る」必要があるだけです。杖を取るとは、キリストの死において彼と一体化し、キリストの死を私たち自身と私たちの状況に適用することです。岩に語るとは、打たれた岩としてのキリストに直接の言葉を語り、その霊がすでに与えられたという事実に基づいて、命の霊を私たちに与えてくださるよう彼に求めることです。

OL4: モーセは、神が怒っていないのに怒って、神の聖なる性質において神を正しく代行しませんでした。そして彼は岩を二度打って、神のエコノミーにおける神の言葉を守りませんでした。こうして、モーセは神の聖なる性質と彼の神聖なエコノミーの両方に違犯しました。

適用: 青年在職、大学院生編

I コリント 10:4 みな同じ霊の飲み物を飲みました。すなわち彼らは、彼らについて来た霊の岩から飲んだのです。そしてその岩はキリストです。

召会生活を実行しているあなたには、召会生活について来る霊の岩があります。民数記の時にこの岩から生ける水が流れ出ました。召会生活について来る霊の岩は、死んでよみがえったキリストであり、生ける水をあなたに与えることができます。ハレルヤ! 感謝します。あなたはこの霊的な事実を、実生活に適用する必要があります。ビジネス・ライフや研究生活で、苦しい環境にいるときに、以下の三つのことを思い出し、適用してください: ①あなたについて来る霊の岩: 召会生活を実行しているあなたには、「ついて来る霊の岩」があります。あなたは信仰によってこの事実を単純に受け入れてください。②杖を取る: 杖を取るとは、キリストの死において彼と一体化し、キリストの死を私たち自身と私たちの状況に適用することです。例えば、あなたは同僚たちに比べて、仕事の進捗が遅いので焦っています。実は焦れば焦るほど労働効率は悪化します。あなたは焦る自分を十字架につけて終わらせる必要があります。③霊の岩に語る: キリストはすでに十字架につけられ、死からよみがえって命を与える霊となりました。あなたはこの事実を信じて、霊の岩に生ける水を与えて下さるように語るべきです。仕事などで

焦っているとき、信仰をもって、「主よ、私に生ける水を飲ませてください。平安の神が、私の内側を落ち着かせ、渇きを癒してください。私は外側のパフォーマンスを改善するために、まず内側の霊的な状況を改善する必要があります。私はまず杖を取り、焦る自分を十字架につけます。主よ、あなたは復活の中で命を与える霊とされました。この事実に基づいて、今、私に飲ませ、内側を潤し、満足を与えて下さい」と祈ってください。あなたは職場でこのように度々祈ってください。キリストは集会の時だけ「ついて来る霊の岩」ではなく、あなたに毎日24時間、「ついて来る霊の岩」なので、あなたは職場でこのようなことを経験することができます。実はあなたが就寝している時も、この岩はあなたについて来ています。このことを信じて苦しい時も安息して就寝してください。

Crucial Point②: 上げられた青銅の蛇を見上げて命を生きる

OL1:民数記 21:4 から 9 の青銅の蛇は、主イエスの予表です。彼は私たちの身代わり、また置き換えとして、罪の肉の様で十字架につけられ、私たちが彼を「見」て(中へと信じて)、永遠の命を得ることができるようにしました。

青銅の蛇は、**①**主イエスを表徴し、**②**イスラエルの子たちを表徴します。なぜなら彼らは罪を犯し、竿に掛けられてのろわれ、裁かれるべきであったからです。それはまた、**③**蛇、サタンを表徴します。イスラエルの子たちは罪を犯したかったのではなく、むしろ、彼らの中の蛇が彼らに罪を犯させたのです。イスラエルの子たちを裁くとき、神は実は蛇を裁いておられました。ですから、竿に掛けられた者は実は蛇でした。人が罪を犯しましたが、蛇が裁きを受けました。これが示しているのは、罪を犯した者が、実は人の中の蛇、すなわち、悪魔であったということです。神の目に、蛇とイスラエルの子たちは一でした。ですから、神が竿の上の蛇を裁いたことは、彼がイスラエルの子たちを裁いたことでもありました。

私たちはまた、究極的に、イスラエルの子たち自身ではなく、身代わりが神によって裁かれたことを見る必要があります。この身代わり、キリストが裁かれたのは、彼が身代わりとなった人々と一体化されることによってでした。キリストの十字架は二つのものの一体化を示します。キリストによって贖われた人々はサタンと一体化されており、またキリストは彼の贖われた人々と一体化されていました。

民数記 21:8-9 は言います、「『かまれたすべての者は、それを見れば生きる』。…蛇がどの人かをかんでも、その人が青銅の蛇を見ると生きた」。これが意味するのは、自分の内側が蛇的であり、自分の中のサタンを罪定めし、キリストの十字架を受け入れることを見るすべての者は、命を持つということです。

適用: 青少年(小学校5年から中高生、大学生)編

青銅の蛇は、**①**主イエスを表徴します。主イエスは罪の肉の様で来られましたが、蛇の毒である罪の性質はありませんでした。彼は罪人と同じような様で来られただけです。彼には罪がなかったのですが、私たちの代わりに十字架上で神に裁かれました。これが青銅の蛇があげられることの霊的な意義です。さらに青銅の蛇は、**②**新約の信者を表徴します。なぜなら私たちが罪を犯し、竿に掛けられてのろわれ、裁かれるべきであったからです。最後に青銅の蛇は、**③**サタンを表徴します。サタンは人を欺き、サタンの性質を人の中に注入して、人に罪を犯させます。ですから人が罪を犯すのは、人の内側のサタンの性質です。主イエスが青銅の蛇としてあげられることによって、神は人の内側の罪の肉を罪定めされました。**ヨハネ 3:14** そして、モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければならない。15 それは、彼の中へと信じる者がすべて、永遠の命を持つためである」。

主イエスが青銅の蛇(毒蛇の形はしているが毒はない)として、十字架に付けられたことを認識し、十字架の死を見上げてください。そうすれば、あなたは永遠の命を得ることができます。また、信じてバプテスマされ既に永遠の命を得たあなたは、自分の墮落した命によって生きるのではなく、キリストの復活の命によって生きることができます。

例えば、あなたは両親や先生の言うことをよく聞く良い子になりたいと考えていますが、いつもあなたの内側の罪はあなたが願わない事、親に反逆したり、先生に反発したりすることを行ってしまいます。**ローマ 7:19** 私は自分の欲する善を行わず、かえって自分が欲していない悪を実行しています。このような時、あなたは青銅の蛇を見上げ、あなたの内側の罪が罪定めされたことと一体化し、復活の命があなたの中で生きることを経験してください。あなたの肉は改善不能であり、罪定めされるしかありません。罪が罪定めされた後、キリストがあなたの内側で生きようになります。**ガラテヤ 2:20** 私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです。そして私は今、肉体の中で生きているその命を、私を愛し、私のためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。祈り:「おお主イエスよ、私の中に罪の性質があり、私が欲する善を行うことをできないようにし、私が欲しない悪を行わせます。ああ、私は何と哀れな人でしょう。しかしハレルヤ、あなたは青銅の蛇として、十字架上で裁かれました。そのとき神は私の肉の中の罪を罪定めされました。私はこの十字架上のイエスを見上げるとき、命を得、命によって生きることができます。アーメン! ハレルヤ!」

Crucial Point③: 庇護の町は三一の神がすべての人にとって近くていつでも利用可能なようになられたことを示す。

地方召会は福音を宣べ伝えて庇護の町となるべきである

OL1:庇護の町は、贖う神の具体化としてのすべてを含むキリストを予表し、間違いを犯した罪人は彼の中へと逃げ込んで、庇護を得ることができます。

OL2:どの罪人でも悔い改めるなら、神は彼を間違いを犯した罪人と見なして赦します。このような者はキリストの中へと逃げ込むことができますが、どの人でも福音を拒絶して、悔い改めないなら、神は彼を故意に罪を犯した罪人、滅びに定められた者と見なします。

OL3:三の数は、間違いを犯す人のための庇護としての三一の神を表徴します。二の数(二組のそれぞれ三つの町)は、宇宙に立っている証しを表徴し、三一の神が地上で人類の間に生きており、彼らの庇護の町であることを宇宙に証しし、宣言しています。

OL4:庇護の町がイスラエルの子たちのためだけでなく、彼らの間の他国人や寄留者のためでもあったことは、間違いを犯す人のための庇護としての三一の神が、全人類のためであることを表徴します。

OL5:さらに、六つの庇護の町が異なる場所に分布していることは、キリストが三一の神の具体化として、近くていつでも利用可能であるということを示しています。三一の神は人々の間に広がって、私たちがいる所に到達し、間違いを犯すすべての者の庇護の町となりました。

民 35:6 あなたがたがレビ人に与える町々は、六つを庇護の町とし、殺人者がそこに逃れるようにしなければならない。

私たちはこれらの庇護の町を地図上にするしづけるなら、それらが均一に分布しているのを見ることができます。六は二かける三から成っています。三は神のための数です。神は彼の三一の中で私たちに届き、私たちと関係を持って私たちの救いとなります。

民数記 35 章が見せているのは、良き地の分配という事柄において、イスラエルの子たちが彼らの受け継いだ所有地のいくらかをささげること、神が願っておられるということです。これはレビ人の町々を生み出すという結果になり、そこからいくつかが庇護の町として分離されました。レビ人の町々は諸地方召会を表徴することができます。庇護の町が表徴するのは、私たちの救い主としてのキリストが、私たちを死の裁きから免れさせ、私たちを救い出して、私たちの霊的な所有地を回復するようになるということです。これが意味するのは、諸地方召会が福音の宣べ伝えにおいて機能する必要がある、それによって人はキリストの贖いを受け、義とされ、霊的な嗣業を受け、こうしてキリストの中に住まいを獲得し、また神が彼らの間に住まいを獲得されるということです。神はこれらの案配をして、神と人、人と神が、共に建造されて相互の住まいとなり、両者が安息を見いだすようにされます。

適用:福音開展編

四月の福音開展の祝福について交わります。(1)4月20日までに25名バプテスマされました。私たちの福音開展は神戸に在る召会の8つの地区の主日の人数を増やすために行っています。人をバプテスマするために、私たちは大変な労苦をしています。この労苦が無駄にならないように、各地区は新人が残る実になるために努力奮闘してください。(2)4月6日の関西(大阪、東大阪、京都、神戸)・徳島・広島・名古屋のキック・オフ・ミーティングが用いられ、神戸だけでなく各地でも福音の開展が祝福されました。(3)3月末の宜蘭(25名)、四月初旬の台北43集会所(52名)、4月中旬の市川召会(13名)とのブレンディングを福音開展及び直前準備時に受け入れました。さらに4月下旬韓国でのギョンベ兄弟の結婚集會に神戸から7名の兄弟姉妹が参加しました。最後の週には教会責任者の兄弟が、韓国での商工ブレンディングの重要な集會に参加しました。これらのブレンディングで召会の度量が広げられ、祝福を得ることができました。(4)新5年生の游子睿君、王宏恩君、磯崎光輝君が4月27日の神戸地区でのバプテスマ集會でバプテスマされました。(5)4月29、30日で一泊二日の六甲山ブレンディングを計画していますので、是非参加してください。29日4時PM、BBQだけの参加も可能です。6種類の新人を多く誘って福音のために用いられますように。

(6)召会は人々に庇護の町を提供するため福音を伝える:地方召会は庇護の町です。罪人が福音を聞いて悔い改めるなら、神は彼を間違いを犯した罪人と見なして赦します。このような者はキリストの中へと逃げ込むことができますが、どの人でも福音を拒絶して、悔い改めないなら、神は彼を故意に罪を犯した罪人、滅びに定められた者と見なします。このことは地方召会が福音を宣べ伝えることで重大な責任を担っていることを示しています。

ローマ 10:12 ユダヤ人とギリシャ人の区別はありません。同じ主が、すべての者の主であって、彼を呼び求めるすべての者に、彼は豊かです。13 なぜなら、「主の御名を呼び求める者はすべて救われる」からです。14 それでは、その中へと信じたことのない方を、どのように呼び求めるのでしょうか？ 聞いたことのない方を、どのように信じるのでしょうか？ 彼を宣べ伝える者がいなくては、どのように聞くのでしょうか？ 15 遣わされないのに、どのように彼を宣べ伝えるのでしょうか？ 「福音の喜ばしいおとずれを告げ知らせる者の足は、何と麗しいことであろう！」と書かれているとおりです。17 ですから、信仰は聞くことから来るのであり、聞くことはキリストの言葉によるのです。

祈り:「おお主イエスよ、地方召会は庇護の町として機能するべきです。宣べ伝えることがなければ、聞くことはできません。神の言葉を聞かなければ、人の中に信仰は生まれません。信仰は聞くことから来るからです。誰でも福音の言葉を聞いて信じ、庇護の町である召会に逃げ込む人は、間違っ

て罪を犯した者とみなされ救われます。私たち地方召会が福音を宣べ伝えることで大きな責任を担っています。主よ、福音の宣べ伝えを祝福してください。主を信じ、召会生活の中に入ってくる人を起こしてください。アーメン！」
I. 高い福音 第15課 バプテスマされる(下)
マタイ 28:19 だから、行って、すべての諸国民を弟子とし、父と子と聖霊の名の中へと彼らをバプテスマして、
紅海を渡ることはバプテスマを予表する

神の選ばれた人々に対する彼の全体的な救いは、過越し、エジプトからの脱出、紅海を渡ることを含みます。過越しは贖いを、脱出はこの世から出て来ることを、紅海を渡ることはバプテスマを表徴します。

紅海を渡ることによって、イスラエルの子たちはエジプトから救われ、また自由の領域へともたらされました。何という救いでしょう！原則において、紅海を渡ることは、今日の私たちのバプテスマと同じです。それは私たちを束縛から救い、キリストにある絶対的な自由へともたらします。

信じることとバプテスマされることが一緒になって、完全な一歩となります。主を信じ、バプテスマされる前に、私たちは罪人でした。しかし福音の宣べ伝えを通して照らされた時、私たちは非常に罪深いことを認識しました。神の御前で、また人に対して、私たちは多くの違反、とがを持っていました。そして、私たちは非常に多くの罪を犯しました。その後私たちは悔い改め、主を信じ、彼の赦しを受け、そして救われました。しかし、私たちの悔い改めと信じることには外側の表現が必要です。この表現がバプテスマです。こういうわけで、バプテスマと私たちが信じること、私たちの信仰は一つの事の二面です。この理由により、新約は信じることとバプテスマされることについて語っています。信じることとバプテスマされることは、一歩踏み出すために二本の足を使うことにたとえられます。まず、私たちは信じます。私たちが信じることは、一本の足が踏み出すことです。それから私たちはバプテスマされます。私たちのバプテスマは、他の足も踏み出して、完全な一歩を完成させることです。信じることとバプテスマされることが一緒になって、完全な一歩となります。

740 バプテスマ — 主の墓を囲む

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|
| 1 主イエスよ、なれのながわざのゆえ、われら信仰もて、このみずにより、 | はかをかこみ、あかしをする。ながみち行き、みわざに入る。 |
| 2 主イエスの苦難をほえたけるなみ、死のみずのなか、御血をながして、 | いま記念する、なれをおそう；バプテスマされ、わがため死ぬ。 |
| 3 主は復かつして、御座にのぼって、死とよみ、やぶり、ながいのちにて、 | くらやみなし、永遠に生きる；われもともに、みわざ享受す。 |
| 4 バプテスマされ、ともに復かつし、サタン、この世、つみ、たびびととして、 | 主の死といち！ 栄光を受ける。もはや縁なし；ともに生きる。 |